

令和6年度 第7回

宍粟市教育委員会

会 議 録

(要点筆記)

日時 令和6年10月17日 午前9時30分から

場所 宍粟市役所 4階 402・403会議室

第7回（定例）宍粟市教育委員会会議録

● 開会・閉会の年月日時及び場所

令和6年10月17日（木） 午前9時30分～10時30分

兵庫県宍粟市山崎町中広瀬133番地6 宍粟市役所4階402・403会議室

● 会議に出席した者の職氏名

教育委員

中田直人 教育長

片山繁樹 委員

飯田さおり 委員

金本一二 委員

中川まゆみ 委員

事務局

大谷奈雅子 教育部長

鳥羽千晴 教育総務課長

小池信仁 こども未来課長

大田貴久 施設整備課長

原田 渉 図書館長

大砂正則 教育部次長

中田 吏 学校教育課長

清水将道 社会教育文化財課長

大北真彰 山崎学校給食センター所長

岩本浩二 教育総務課副課長

1 開会

中田教育長が開会した。

2 会議の成立宣言

出席者数5名となり、中田教育長が会議の成立を宣言した。

3 会議録署名委員の指名

署名委員は、中田教育長の指名により、片山委員に決定した。

4 前回会議録の承認

令和6年度第6回（定例）宍粟市教育委員会会議録の承認に関する件
前回の会議録について、鳥羽教育総務課長が説明し、承認された。

5 教育長報告

（1）山崎南中学校区学校規模適正化進捗状況について

山崎南中学校区学校規模適正化地区協議会について、この後、担当課より状況報告をします。

（2）第3次宍粟市子ども読書活動推進計画の骨子案について

第2次読書活動推進計画が令和7年3月で終了することから、子ども読書活動の推進に関する法律の規定により、国県の計画を基本として第3次宍粟市子ども読書活動推進計画を策定しようとするものです。この後、担当より報告させていただきます。

(3) 令和7年度幼稚園・保育所・こども園の園児募集について

令和7年度の幼稚園・保育所・こども園の園児募集が始まります。

後ほど担当よりご報告させていただきます。

(4) 山崎西中学校長寿命化工事について

老朽化が進んでいる山崎西中学校の大規模な改良工事を令和7年度から3か年にわたり実施します。後ほど担当よりご報告させていただきます。

6 協議報告事項

(1) 山崎南中学校区学校規模適正化進捗状況について

資料1【1P】により、鳥羽教育総務課長が説明した。

(2) 央粟市内小中学校で認知したいじめ事案について

資料2【2～4P】により、中田学校教育課長が説明した。

(3) 令和6年度理科おもしろ実験教室について

資料3【5～6P】により、中田学校教育課長が説明した。

委員の主な意見及び事務局の説明

(片山委員)

資料2の説明に、いじめの認知の方法として、教師による認知が昨年度より倍以上に増えた。教師からのいじめを認知しようという努力が見られる。という報告を受け、これまでこの部分が少なかったが、倍以上に増えているのは本当に好ましい方向だと思います。同時に児童生徒からの訴えも、昨年度よりも大幅に増えており、教師だけでなく、児童生徒と教師の関係もよくなっていると感じましたので、次の報告でも、このような傾向であってほしいと思いました。

(4) 令和7年度 幼稚園・保育所・こども園の園児募集について

資料4【7～8P】により、小池こども未来課長が説明した。

(5) 令和7年度 あずかり保育・学童保育の児童等募集について

資料5【9P】により、小池こども未来課長が説明した。

(6) 第3次央粟市子ども読書活動推進計画骨子案について

資料6【10～43P】により、原田図書館長が説明した。

(7) 山崎西中学校長寿命化工事について

資料7【44P】により、大田施設整備課長が説明した。

委員の主な意見及び事務局の説明

(片山委員)

子ども読書活動推進計画の資料で、24ページのアンケート調査結果について、参考資料として「10月7日政策会議」と表記があります、アンケート自体は6月に実施されており、策定委員会では調査結果の報告はなかったのでしょうか。

(原田館長)

アンケート結果については、8月1日の第1回策定委員会で報告しております。

(片山委員)

アンケート結果について策定委員の方から何かご意見はなかったでしょうか。

調査方法が、小学1、2年生は保護者、3年から6年については児童自身が回答とされています。

回答率が1、2年保護者は50%、3年生以上は80から100%となっており、1、2年は50%の回答者の結果に、信頼性がどうかとを感じる部分があります。

また本人からと保護者からの回答では、低学年と中・高学年の傾向が違ってくるのではないのでしょうか。

例えば、27ページの読書時間の考察では、「平日1日当たりの読書時間について30分以上の割合は小学校3、4年生の32%をピークに減少し」とありますが、小学校1、2年生については、低い状況となっています。

保護者が判断されて時間を回答されていると思いますが、子どもが答えた場合、学校でも読んでいるなどもっと時間数が増えるのではないかと思うところもありまして、結果や考察についても少し疑問が残ると感じました。

(清水課長)

策定委員会の中でもアンケートの方法については、保護者だけでなく、1、2年の児童から調査をする方法がないのかという意見がでました。

学校の先生方にお聞きした中で、1、2年生がこのアンケートの設問に対して正確に答えることが非常に難しいとの意見があったことや保護者が1番子供たちを見ている状況もあるので、保護者のアンケートとなりました。

ご指摘のあったとおり、3年生以上と1、2年生では少し傾向が違いますが、この結果も市としては、意見として捉え、計画に反映していく予定です。

(大谷部長)

事務局としてもアンケート方法について課題があるのではないかと考えてみました。

これまでこどもの実態を表すアンケートを実施したことがなく、今回初めて行いました。

先ほど片山委員からいただいたご意見については、次回の課題として持つ必要があり、次回の計画策定では、アンケートのとり方や設問設定も含めて、課題として捉えていきたいと考えております。

(中川委員)

アンケートの回収状況で幼稚園・保育園・こども園の保護者の回答率が37%で、36ページの未就学児（5歳児）保護者の子どもの読書活動に関する意識として、とても重要との回答が80.5%とすごく高く、回答された方については、読書活動の重要性をすごく認識されてると思いました。

回答されなかった6割以上の方は、家庭でも読書活動についての意識が低いのかなと気になりましたので、その辺のところも重点的に考えていただけたらと思います。

また、未就学児の図書館利用も少なく「忙しいから行く時間がない」が62%と、子育て中の

お父さん、お母さんは忙しく、してやりたくてもできない状況だと感じると思います。

その辺りの充実をさせるには、幼稚園やこども園の働きかけもすごく大事だと思います。

子供は、お父さん・お母さん・おじいちゃん・おばあちゃんに生の声で読んでもらうのがすごくうれしいことなので、その辺の充実ができるようなことを幼稚園やこども園・保育所とも一緒に考える必要があるとこの結果を見て感じました。

(原田館長)

今までの計画の反省として、幼稚園・保育所・こども園への周知が不足していたと思います。

計画には具体的な取組も示す予定ですが、その内容の周知ができていなければ、十分な取組ができないことにもつながりますので、先ほど頂いたご意見も含めて、今後、幼稚園・保育所・こども園へ十分に周知していきたいと考えています。

(大谷部長)

家庭へのアプローチも含めて就学前の施設の役割はとても重要だと認識しました。

また、未就学児のアンケートの回答率が低い状況ではありましたが、アンケートに答えてくださった方の読書への関心が高いというのは結果として出ておりますので、そのように捉えていただけたらと思います。

(中田教育長)

園児募集について10月広報に掲載されるとのことですが、くりのみこども園について、7ページでは「くりのみこども園は令和7年4月にくりのみ保育園から移行予定」と記載され、8ページでは、「令和7年4月開園の私立くりのみこども園はくりのみ保育園まで」と記載されています。認可について公表されていますか。

(小池課長)

県からは、園児募集は認定こども園について認可がおりないと募集はしてはいけないとの指導があります。例年、認可は園児募集の前の9月か10月には内示があるので、10月広報の時点で募集はできると考えています。

(中田教育長)

宍粟市子ども読書活動推進計画の策定について、第2次の計画からの課題がどうだったのかを見る必要があると思います。そこで、課題についての記述を概観すると、それぞれの文末が「取組が求められる」「推進が必要である」「検討していく必要がある」「課題となっています」など様々な表現が使われている。これらは、それぞれ意味が異なるため、文末表現は少し慎重に言葉を使っていただけたら、課題が分かりやすいかなと感じましたので、検討をお願いします。

次に質問ですが、第3次計画の指標はどのように考えられますか。

(原田館長)

現在の計画にもあります重点取組項目を中心に指標を設定したいと考えています。

(中田教育長)

第3次計画では、18歳未満の子どもを対象としましたが、第2次の「全ての市民」の対象から「子ども」にした理由の一つに、国の法律や県の方向性に準じて、市も「子ども」にある程度焦点化しているという説明を行うのであれば、指標も市独自ではなくて、例えば目標値を「全国あるいは県以上」にするなどとして、指標について国や県との比較を可能とすることも一つの理由に挙げていただきたいと思います。

(金本委員)

自身の経験から、一番上と一番下の子どもが、小・中学校で学校の図書室にある本を全部読んだらしく、中学校では部活などもあり忙しい中で図書室をよく利用していたのは、とても本に興味があったからだと思います。

そんなことを家庭内で話すと、母親が1番上の娘と下の子は、小さい時に寝かす際に本を読み聞かせる時間が取れていたと言っておりまして、子育てをしていく上で、小さい頃に本の読み聞かせなど親しむことで、本に興味を持つことができたのかなと感じました。

図書館の役割も大切ですが、学校の図書室の活用状況も検討していただきたいです。

7 次回会議の招集について

令和6年11月12日(火)午前9時30分から、宍粟市役所 402・403会議室において、令和6年度第8回宍粟市教育委員会を開催することとした。

9 閉会

中川委員が閉会した。